

行事予定 (2011年)

- 3月11日(金) 第一回常任幹事会
- 4月23日(土) 第78回 教育セミナー
「講義形式」
- 5月8日(日) 第79回 教育セミナー
「実技形式」
- 6月10日(金) 第二回全国幹事会
- 6月10日(金) 第1回生涯教育講演会
- 6月10日(金) 第21回日本臨床検査専門
~11日(土) 医会春季大会および
第38回総会
- 7月22日(金) 第28回臨床検査振興
セミナー
- 10月14日(金) 第二回常任幹事会
- 11月17日(木) 第三回全国幹事会および
(予定) 第39回総会(未定)
- 12月16日(金) 第三回常任幹事会

巻頭言

日本臨床検査専門医会
全国幹事 山田 俊幸

2010年度から教育研修委員長を務めております。どうぞよろしく申し上げます。

この自分が教育担当などとは以前は考えてもみませんでした。適性とか能力だけでなく、教育というものをそれほど重要視してこなかったからです。共感いただける方もおられると思いますが、私の年代では「自分で勉強する」が基本で、教員については、「素晴らしい講義だった」と思うことはあっても、「内容や教育技術が poor で迷惑した」などとはあまり思いませんでした。ですから「学生が教員を評価する」、「教員が教育法修練のための研修会に参加する」、などということには違和感を抱いたものでした。

しかし、そのような考え方はもう成りたちません。新しいことが毎日のように出てきて自学には限界があります。医療安全の観点からは、不適切な教育が医療に弊害をもたらすと指摘されています。臨床検査医学の教育では「検査の理論と技術背景を理解した上で、検査成績を適切に評価できる」医師を育てなければなりません。

前号本欄で尾崎由基男先生は、「検査医は多様であるが、それを前向きに考えていけばいいのではないかと」言われたと理解しました。勿論大賛成ですが、「多様」であり過ぎることのマイナス面も気になるところです。言うまでもなく、スタンダードな検査医の姿が他の医療分野・社会から見え難いからです。

なにか共通の旗印のもとにまとめられないか、となるとそれは教育(特に卒前)ではないでしょうか? そうなると検査医の行う教育内容・手法をある程度標準化する必要があります。でもどうやって? teacher training のようなものが必須でしょうか? このあたりは学会、専門医会ともに議論を深める必要を感じます。

とりあえず、ですが、この分野に新しく入ってこられた方には、臨床検査医学の教科書を何か一つ通読されることをお勧めします。基礎医学と臨床医学に「技術学」のスパイスが入った検査医学独特の味をつかみとってください。血液細胞の発生や形態学とその臨床は他でも扱いますが、日々データを生み出している血球計数機の長所短所を教えるのは私たち以外にいません。教科書に記載がなかったら検査技師を含む経験ある人に尋ねればいいのです。

検査医が「同一性」をもって教育に寄与し、「多様性」を活かして研究、診療に活躍、貢献するのが理想と信じます。

【目次】

- p.1 巻頭言
- p.2 事務局からのお知らせ、平成23年度の行事予定のお知らせ、平成23年度教育セミナーのお知らせ、第1回生涯教育講演会のお知らせ
- p.3 第21回日本臨床検査専門医会春季大会のお知らせ、「臨床検査の日」制定フォーラム報告
- p.4 会費納入について、住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について、会員の声：平成22年度 第27回 臨床検査振興セミナー報告、(会員の声)臨床検査専門医試験を受験して
- p.5 (会員の声)第27回臨床検査専門医認定試験体験記
- p.6 (会員の声)臨床検査専門医認定試験受験体験記、編集後記



ビーグル
(具満タンより)

JACLaP NEWS 編集室 金子 誠(編集主幹)
〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部附属病院 検査部内
TEL: 03-3815-5411 内線 35005/Fax: 03-5689-0495
E-mail: mkaneko-kkr@umin.ac.jp

【事務局からのお知らせ】

《会員動向》

2011年1月31日現在数719名、専門医575名

《新入会員》（敬称略）

出居真由美：順天堂大学医学部臨床検査医学講座
田中 裕滋：近畿大学医学部臨床検査医学
松下 一之：千葉大学医学部附属病院検査部
楠見 智巳：大館市立総合病院臨床検査科
久川 聡：株式会社保健科学研究所

《所属・その他変更》（敬称略）

重松 和人：旧 長崎大学医学部第二病理学教室
新 日赤長崎原爆病院研究所病理
杉江 茂幸：旧 金沢医科大学腫瘍病理学
新 朝日大学村上記念病院病理
野間 喜彦：旧 徳島大学医学部附属病院検査部
新 医療法人川島会川島病院
益田 順一：旧 島根大学医学部臨床検査医学講座
新 鯉沢社会保険会後老人保健施設
サンビュウかじかざわ
吉田 治義：旧 福井大学医学部附属病院検査部
新 杉田玄白記念公立小浜病院 病院長
塩野さおり：旧 順天堂大学浦安病院病理診断科
新 順天堂大学医学部人体病理学

《退会会員》（敬称略）

中村 吉伸：中村内科医院
(2010年11月12日)
佐藤 葉子：甲府脳神経外科病院 PET センター
(2010年12月7日)
山口 延男：神戸大学名誉教授、荻原みさき病院名誉院長
(2010年12月31日)
降矢 熒：株式会社保健科学研究所
(2010年12月31日)
中川 俊正：(2010年12月31日)
荒木 仁子：(2010年12月31日)

【平成23年度の行事予定のお知らせ】

平成23年度 日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせいたします。

開催日時、場所の変更が生じる場合があります。変更があり次第JACLaP WIRE、JACLaP NEWSでお知らせします。その都度ご確認ください。

平成23年

- 1月21日(金) 第一回全国幹事会
開催会場：日本臨床検査医学会事務局
- 3月11日(金) 第一回常任幹事会
開催会場：日本臨床検査専門医会事務局
- 4月23日(土) 第78回教育セミナー(講義形式のセミナー)
開催会場：順天堂大学
- 5月8日(日) 第79回教育セミナー(実技形式のセミナー)
開催会場：自治医科大学
- 6月10日(金) 第二回全国幹事会
開催会場：アイーナ

(岩手県民情報交流センター)

6月10日(金) 第1回生涯教育講演会

開催会場：アイーナ

(岩手県民情報交流センター)

6月10日(金)～11日(土) 第21回日本臨床検査専門医会
春季大会

開催会場：アイーナ

(岩手県民情報交流センター)

大会長：諏訪部章 教授(岩手医科大学医学部
臨床検査医学講座)

6月11日(土) 第38回日本臨床検査専門医会総会

開催会場：アイーナ

(岩手県民情報交流センター)

7月22日(金) 第28回臨床検査振興セミナー

開催会場：東京ガーデンパレス

10月14日(金) 第二回常任幹事会

開催会場：日本臨床検査専門医会事務局

11月17日(木) (予定) 第三回全国幹事会

開催会場：未定

第39回日本臨床検査専門医会総会

日本臨床検査専門医会講演会

開催会場：未定

12月16日(金) 第三回常任幹事会

開催会場：日本臨床検査専門医会事務局

【平成23年度 教育セミナーのお知らせ】

平成23年度教育セミナーの受講受付中です。申込ご希望の方は、日本臨床検査専門医会ホームページ(<http://www.jaclap.org/>)をご参照ください。

申込期間：平成23年1月17日(月)から3月18日(金)

①第78回教育セミナー(講義形式セミナー)

日時：平成23年4月23日(土) 9時～17時

場所：順天堂大学

内容：一般検査、血液検査、生化学検査、免疫検査に関する図説を中心とした講義と、微生物検査と臨床疫学に関する講義を行います。

②第79回教育セミナー(実技形式セミナー)

日時：平成23年5月8日(日) 9時～16時

場所：自治医科大学

内容：輸血検査の講義と実習、微生物検査の実習を中心に行います。

【第1回生涯教育講演会のお知らせ】

平成23年度から新たに、生涯教育講演会を開催いたします。すべての会員(専門医試験受験予定者)を対象としたリスクマネジメントと検査室管理に関する講演会です。臨床検査専門医の方は、資格更新の単位10点を取得することができます。また、本講演会は、日本臨床検査医学会のリスクマネジメントに関する講演会のひとつとして認定されています。

開催日時：平成23年6月10日(金) 15時～17時

開催場所：アイーナ(岩手県民情報交流センター)

(第21回日本臨床検査専門医会春季大会の前に

開催されます)

会 費：2,000円

事前申し込みは不要です。直接、会場におこしください。

《プログラム》

- 講義 1. 木村 聡(昭和大学横浜市北部病院 検査部)
「検査室のリーダーシップ入門」
- 講義 2. 高橋 智(岩手医科大学附属病院 医療安全推進室)
「日常の医療安全と医療倫理」

【第 21 回日本臨床検査専門医会春季大会のお知らせ】

第 21 回日本臨床検査専門医会春季大会が下記の日程で開催されます。なお、6 月 10 日(金)の特別講演終了後、懇親会を行います。懇親会では盛岡名物『わんこそば』大会として、2007～2009 年全日本わんこそば選手権三連覇し殿堂入りされた菅原初代さんをゲストに迎え、楽しい企画を行います。奮ってご参加ください。

大会長：諏訪部 章 教授(岩手医科大学医学部
臨床検査医学講座)

開催日時：平成 23 年 6 月 10 日(金)～11 日(土)
会 場：アイーナ(岩手県民情報交流センター)

《プログラム(案)》

※内容は今後変更されることがあります。

2011 年 6 月 10 日(金) 18:00～

特別講演：『地域医療の現状と将来展望』

岩手医科大学学長(前全国医学部長病院長会議会長)
小川 彰 先生

2011 年 6 月 11 日(土) 9:25～15:35

9:00 受付開始

9:25 開会挨拶 諏訪部 章

(岩手医科大学医学部臨床検査医学講座)

9:30～11:30 シンポジウム I

「検査専門医による横断的診療支援」
司会 高橋伯夫(関西医大)
一山 智(京都大学)

1. 神尾多喜浩(済生会熊本病院中央検査部)
「当院検査部での BSC および年間行動計画の作成と業績発表会の実施」
2. 木村 聡(昭和大学横浜市北部病院)
「電子カルテ『掲示板』機能を活用したコメント記載による診療貢献」
3. 橋本琢磨(公立能登総合病院)
「検体検査管理医としての働き」
4. 鈴木啓二郎(岩手医科大学医学部臨床検査医学講座)
「輸血業務における検査医の役割」
5. 八田益充(東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座
感染制御・検査診断学分野)
「感染制御・感染症診療における検査医の役割」
6. 総合討論

11:30～12:30 ランチョンセッション

「検体管理加算(IV)は病院運営に貢献できたか」
司会 宮澤幸久(帝京大学医学部臨床病理学)

1. 池淵研二(埼玉医科大学病院中央検査部、輸血・細胞移植部)
「私立医大のアンケート調査から」
2. 齋藤勝彦(富山市民病院中央研究検査部)
「研修指定病院(市中病院)の立場から」
3. 東條尚子(東京医科歯科大医学部附属病院検査部)
「次期診療報酬改定と検体管理加算(IV)」

12:30～13:00 休憩：ちゃぐちやぐ馬こ 見学タイム

※12 時 40 分前後会場から近い盛岡駅前を行列が通過します。
興味ある方はぜひ会場を出てご見学ください。

13:00～13:30 第 38 回日本臨床検査専門医会総会

13:30～15:30 シンポジウム II「臨床検査科はどうなった？
～実践施設の検査専門医に聞く～」

司会 村田 満(慶応大学)
萱場広之(秋田大学)

1. 和田英夫(三重大学大学院医学系研究科病態解明学講座
検査医学分野)
「血栓・止血異常診療センターの役割について」
2. 安東由喜雄(熊本大学大学院生命科学研究部
病態情報解析分野)
「検査カフェと臨床検査科」
3. 末広 寛(山口大学大学院医学研究科臨床検査・腫瘍学
分野)
「遺伝診療外来と臨床検査科」
4. 村上正巳(群馬大学大学院医学系研究科病態検査医学)
「術前スクリーニングにおける臨床検査科の役割」
5. 菅野剛史
【特別発言】「検査専門医と広域診療支援」
～医師会とのネットワークの必要性～
6. 総合討論

15:30 次期会長挨拶 日野田裕治(山口大学大学院医学研究
科臨床検査・腫瘍学分野)

15:35 閉会の挨拶 諏訪部 章(岩手医科大学医学部
臨床検査医学講座)

【「臨床検査の日」制定フォーラム報告】

臨床検査振興協議会※主催により、平成 22 年 11 月 11 日(木)、中野区もみじ山文化センター「なかの ZERO 小ホール」において、「臨床検査の日・制定記念フォーラム」が開催されました。臨床検査の重要性を国民に啓発するため、新たに 11 月 11 日を「検査の日」と制定したもので、悪役商会の八名信夫氏がイメージキャラクターとして起用されました。渡辺清明臨床検査振興協議会理事長の挨拶、来賓祝辞の後、八名信夫氏のミニ講演「いい脇役がいて主役が映えるー医療の縁の下の力持ち：臨床検査ー」、記念フォーラム：「知ってもらおうみんなの臨床検査」が行われました。当日、会場玄関ロビーには、臨床検査専門医による無料健康相談コーナーが開設されました。日本臨床検査専門医会からも 8 名が健康相談の支援に参加し、大勢の相談者に対応し、好評を得ました。

これに先立ち、平成 22 年 11 月 6 日、大阪において、ブリティ発行 15 周年記念イベントに臨床検査振興協議会のブースが開設され、臨床検査の日がアピールされました。ブース内に「鉄分不足の簡易測定体験コーナー」、「臨床検査専門医による健康相談コーナー」が設置されました。日本臨床検査専門医会から 8 名の専門医が参加、その他研修医、臨床検査技師を含む総勢 33 名が運営に協力し、若い女性を中心に多くの来場者が絶えず列をなす盛況ぶりでした。「臨床検査の日」フォーラムは、来年度以降は全国的に活動を展開していく計画です。

※臨床検査振興協議会は、臨床検査の重要性や有効活動の普及を促進し、国民の QOL の増進ならびに健康維持に寄与することを目的に、平成 17 年 4 月 1 日、日本臨床検査医学会、日本臨床検査専門医会、日本衛生検査所協会、日本臨床検査薬協会を会員として設立し、日本臨床検査技師会がオブザーバーで参加している団体です。

【会費納入について】

平成 23 年度の会費振込用紙をお送りしますのでお振込をお願い致します。尚、未納分のある会員の方は合計額をお振込ください。(納入状況は振込用紙に記載致します)

年会費：1 万円

郵便振り込み口座：00100-3-20509

日本臨床検査専門医会事務局

ご自身の振り込み状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせください。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にもなって定期刊行物、JACLaP WIRE など電子メールの連絡が着かなくなる会員がいます。

勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項は本年度会費の振り込み用紙に記載するか、ホームページから【会員情報変更届】をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でお送りください。

【平成 22 年度 第 27 回 臨床検査振興セミナー報告】

平成 22 年 7 月 22 日(木)に行われた臨床検査振興セミナーには、約 80 名の賛助会員が詰めかけ、正会員と渉外委員会スタッフ合わせて 107 名が参加した。平成 22 年が診療報酬改定の年であったため、総合テーマを「これからの診療報酬改定—おもに臨床検査に関して—」と題して、行政・学会・業界のそれぞれの代表者から、それぞれの立場のご発表をお願いした。

最初に、実際に診療報酬(保険点数)を決定している厚生労働省の保険局医療課の佐久間 敦 課長補佐(当時)から、「平成 22 年度診療報酬改定について」お話しいただいた。今回の改定は、救急、産科、小児科、外科の充実など我が国の医療の喫緊の課題に対応すべく、10 年ぶりのネットプラス改定を行う必要性が厚労省の見解として 21 年 9 月に発表されていたことを踏まえての話であった。実際に診療報酬本体ではプラス 1.55%(約 5,700 億円)、薬価等の改定ではマイナス 1.36%(約 5,000 億円)、ネットで約 700 億円(プラス 0.19%)のプラス改定となった。臨床検査については、検体管理加算 IV の新設、外来迅速検査加算の増点、など我々の希望する点数よりは少なかったものの、臨床検査振興協議会で取り纏めた新設・増点希望項目がほぼ認められたことは、臨床検査振興協議会の地道な努力の結果であると思われる。

2 番目には日本臨床検査医学会の宮澤幸久 理事長より「診療報酬と臨床検査」と題し、お話をいただいた。今回の改定が民主党政権下で初のことであり、点数引き上げに大きく期待したが、プラス改定ではあったものの全体改定率が 0.19%の増加にとどまったのは残念としながらも、臨床検査の面からは評価できる内容であると述べられた。今後の試料報酬改定に向け、引き続き不採算項目の増点、判断料の適正化、さらなる検査名称の整備など、学会での検討と臨床検査振興協議会の医療政策委員会での活動を進めていく方針が示された。

最後に、業界代表として検査センターの団体である日本衛生検査所協会の田澤裕光 副会長から「日衛協から見た外部委託検査の緊急課題」と題して、約 60%の検体検査が検査センターに委託されている現状と、その精度を担保すべき法体制の現実離れ、健康保険法では“診療”に位置づけられている検査が保点改定では“もの”に位置づけられているなどの

矛盾点について話された。さらに臨床検査の評価が診療の質の観点から行われていたのが、経営的な観点から行われるようになってきたことへの危惧を表明され、外部委託取引の健全性(評価を経営的な観点から医療の質に戻す)について、検査センター側から提案を受けるなど、時代の移り変わりを感じる発表であった。それだけ検査センターでも臨床検査の危機的状況の理解が進んでいることの証であろう。

本セミナーは日本臨床検査専門医会の賛助会員を対象の中心としたものであるが、産官学が一堂に会する機会でもあり、今後の臨床検査の進むべき道を模索する場でもある。本年 7 月には、我が国の臨床検査を崩壊から守るためのセミナーを企画したいと考えている。この場を借りての報告とお願いであるが、当会も参加している臨床検査の振興について業種を超えて考えていく臨床検査振興協議会活動は、医療政策委員会の行政への働きかけが効果を上げている。昨年 11 月 11 日を「臨床検査の日」とし、さらに国民に臨床検査の近代医療における重要性を啓発し、臨床検査の精度維持が医療界を挙げて取り組むべき課題であることを訴えていく広報活動も充実が期待される。本年の「臨床検査の日」関連イベントにも、是非多くの会員・賛助会員のご協力をお願いする。

(日本臨床検査専門医会 副会長 佐守 友博)

【会員の声】

臨床検査専門医試験を受験して

この度臨床検査専門医の仲間入りをさせていただきました順天堂大学臨床検査医学科の堀内裕紀と申します。私は、2003 年に順天堂大学医学部を卒業し、内科研修医を経て臨床検査医学科に入局致しました。内科(特に血液内科)にも未練はありましたが、子育てとの両立を考えた際に、学生の頃から医局の先生方の生き字引のような溢れる程の知識に感銘を受けていたこと、臨床検査医の立場から血液患者さんの役に立てたらという思いから、臨床検査科への入局を決意しました。現在は大学院生として、育児中であることをご配慮いただき助けていただきながら、血液を中心とした検査判定や学生指導などの日常業務と研究に従事しております。

専門医試験の試験勉強は、まず 2 回の教育セミナーを受講することから始まりました。「臨床検査」の範囲は多岐に渡り、過去問集もないため、始めは試験勉強として何をどこまでしたらよいのか手探りの状態でした。しかし、実技形式セミナーで実技試験の中核となる輸血や微生物の実習や講義を行っていただいたり、講義形式セミナーでその他の検査分野の最も重要なポイントを中心とした講義をしていただきました。この時いただいた資料が、その後の試験勉強の最大のバイブルとなり、これらを中心に知識を深めていく勉強をしました。実技試験対策としては、セミナーの他に自施設で輸血検査の血型・クロスマッチと、細菌検査のグラム染色・分離培地所見などを 2~3 回ずつ練習させていただきました。実際勉強を始めてみると、知らない事だらけで、勉強するほどに楽しくなる反面、日頃の勉強不足を痛感し、試験までずっと不安でした。試験当日は 2 日間を通して常に時間に追われ、焦りながら問題を解いていた印象です。筆記試験では、各問題の解答欄のあまりの大きさにどこまで書くかを迷い、結局時間が足りなくなりました。実技試験は、私は最大の山と言われている免疫(輸血)からのスタートでした。輸血判定の他にかなりのボリュームの筆記問題がありました。正確に判定することだけを意識し練習していたため、速く判定しなければならぬ状況に緊張は倍増、案の定残されたごく僅かな時

間で筆記問題を解くという悲惨な状態に陥りました。出鼻をくじかれ、立ち直れないまま次々と進んで行きました。結局試験は焦りと落胆の連続でしたが、結果合格できてとても安心し、素直に大変嬉しく思いました。この試験を通じて、多くを勉強し、臨床検査医の存在意義を理解することで、この道を選んで良かったと改めて感じました。

臨床検査の分野は、どこよりも勉強が必要な分野だと思いますが、病棟を持たないという点では家庭との両立を考える女医にとっても良い分野だと思います。私自身は、今は医局の人数も少なく、周りに迷惑ばかりかけてしまう存在ですが、同じような家庭との両立を願う女医さんが何人か集まれば、小さいながらも確実な力になれるように思います。周囲の話を聞いてみても、子供1人目の場合は何とか復帰しても2人目以降になると、更に何倍もの手がかかることやこれ以上周りに迷惑をかけられないという思いから、現場から退く女医さんがほとんどです。そのような女医さんも視野に入れ、臨床検査の女医ネットワークも更に広がったら…というのが、私の今後の秘かな夢です。

最後になりましたが、私が専門医試験に合格できたのには、数え切れない程の周りの方々のおかげがあったからです。学生時代から本当に興味をもてるようにあらゆることを教えて下さった医局・OB・OGの先生方、試験前に一部業務を免除にして下さり、それをご負担下さった先生方、快く手技や検査部状況などを教えて下さった技師の方々、ご自身も大変な時にメーリングリストを作成し受験者を取りまとめて下さった先生、あれ程準備の大変なセミナー・試験に携わって下さった先生・秘書の方々、すべての方々にご心より御礼申し上げます。少しでも恩返しができるよう、ゆっくりでも着実に前進できるよう、今後も日々努力したいと思っております。これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。

(順天堂大学臨床検査医学科 堀内 裕紀)

第27回臨床検査専門医認定試験体験記

平成22年度臨床検査専門医認定試験を受験し、何とか臨床検査専門医の仲間入りをさせていただいた松浦と申します。年齢53歳にして受験勉強なるものを久しぶりに再体験し、とても刺激になりました。大学卒業後、消化器内科医として大病院や県立病院で働いてきましたが、教授から「臨床検査医学講座で人を求めているので、2年間くらい行ってくれないか」との依頼(命令?)があり、以来ほぼ10年間、大学の臨床検査医学講座に属し、病院では中央検査部で働いています。2年と思っていたのが、10年も経つとただ遊んでいるわけにもいかず、検査部の管理にも関わらなくてはなりません。とは言うものの、臨床検査医としての専門性から管理法まで、勉強不足と感じていました。また、専門医試験は実技もあり、大変難しいとも聞いており、年齢も年齢なので受験へのトライはほぼあきらめていました。そうしたところ、平成21年度から「臨床検査管理医」制度が発足し、まず、その講習会に参加してみることにしました。平成21年8月29日札幌の第56回日本臨床検査医学学会学術集會に付随した講習会を受講し、認定試験を受けてみました。その後、この講習が、中央検査部での管理や自身の研究に大変に役立ちました。また、渡辺清明理事長から、管理医に続いて「臨床検査専門医」も目指していただきたいという講習会参加者へのアドバイスもあり、専門医を目指してみる気持ちになりました。

専門医試験の受験要綱をみてみましたが、色々な条件が書いてあり、自分に受験資格があるのかははじめは理解できませんでした。慈恵医大附属病院中央検査部の海渡健部長から講

習会を受けないと専門医試験は受からないと聞き、3回の日本臨床検査専門医教育セミナーに申し込みをし、4月25日の第7回GLM教育セミナーにまず参加しました。講習内容は職場管理法の実習でしたが、そこで、専門医をめざす先生方にお会いすることができました。若い方々が多いのですが、私と同年代の方もおられ、少し安心しました。また、専門医の先生方から指導を受けることもでき、まず、日本臨床検査専門医会に入会することにしました。入会したところ、JACLaP Newsが送られてきました。そこに、臨床検査専門医試験を受けた先生方の体験談が掲載されていました。その中で、ほぼ同年代の青梅市立総合病院の今井康文先生の「臨床検査専門医合格記」が大変参考になりました。

臨床専門医試験は、ほかの専門医試験とは異なり、実技試験が重要視されています。消化器内科から臨床検査医学に移籍したからといって、輸血検査、細菌検査、血液・骨髄像の診断などを自分でやってみたことは一度たりともありませんでした。5月の2回の教育セミナーで、輸血検査、微生物検査の実習、血液検査、一般検査、生化学検査、免疫検査の講習を受けました。しかし、実技試験では限られた時間で、自分で検査し、判定しなければなりません。6月中旬までの一連の学会終了後、検査部の技師長にお願いしたところ、7月末までに、輸血実習3回、細菌検査実習3回、血液・骨髄像実習常時、一般検査3回の予定を立ててくれました。技師さんたちも結構厳しく鍛えてくれ、大変助かりました。実際、血液型のスクリーニング検査や骨髄像の読みなどは、専門外でしたが、勉強になりました。今井先生の合格記には、セミナーのエッセンスや過去の問題を参考に、自分のノートをつくることを進めていました。私の年齢では、到底教科書丸暗記はできませんし、丸暗記では解けそうな試験でもなさそうでした。このため、試験内容を項目別に分け、マイノートを作りました。設問に対する答えを自分で教科書、文献、インターネットで調べ、さらに、自筆で書き入れました。ワープロでいつも書いているので、漢字も忘れていて、筆記試験で困ると思ったためです。実際、筆記試験では、3時間書き続けて、結構手指が疲れてしまいました。このノートは、直前の頭の整理に随分と役立ちました。また、臨床検査医が何に注目していくべきなのかという点も明確になっていきました。ESBL産生菌やMDRPなど耐性菌の問題、輸血でのTRARIの問題、新型インフルエンザ、不規則抗体スクリーニング、ROC解析の方法など、臨床検査医と言いながら、知らなかったり、曖昧だったり、忘れていたことが整理できました。検査室の管理や機器についても、技師長から改めて聞くことができました。臨床検査医学会のホームページの中から、質疑応答集の関連部分に目を通しました。日本臨床検査専門医会の「Laboratory and Clinical Practice」20巻の虎ノ門病院米山彰子先生の「臨床検査の診療報酬—現状と課題—」から、検査関連の診療報酬の変遷を学ぶことができました。管理医として何をしていくべきかが明確になりました。講習会の同士の先生方からは多くの情報をいただきました。

慶應大学医学部で行われた真夏の7月31日午後の筆記試験、8月1日午前・午後の実技試験は、実際のところ大変でした。特に、実技の後半は体力不足で、頭も働かない状態でした。健康管理・体力維持も重要な受験の要素です。試験中は覚えていたはずなのに忘れてしまい小パニックを起こしながら、試験監督の先生方に導かれ、何とか終わることができました。終了後のビールは猛暑のせいもあったのですが、大変美味しく感じました。

このような経過で、ようやく臨床検査専門医の仲間入りをさせていただきましたが、一層の努力が必要との評価もいた

だき、さらに精進してまいりたいと思います。大学やその附属病院では、臨床検査はどちらかというと裏方仕事と考えられています。「臨床検査医学は学問ではない」と考えておられる先生もいます。しかし、病院での日々の診療が正確、安全に行われるためにも検査部の役割は重要です。また、卒前・卒後教育にも多くの時間を割き、正しい検査の知識や手技を教えることも必要です。研究でも最先端の研究ばかりでなく、臨床検査データの正しい解析の仕方、検査室の管理法など、基盤研究・実用研究がしっかりした施設は、評価も自然と高くなると思います。昨今の「神の手」だけで医療の評価をされるのもいかがなものかと思えます。

久しぶりの受験勉強と試験でしたが、多くのことを学ぶことができました。休日にも関わらず講習会でご指導いただいた専門医の先生方、同じ試験を受けた先生方、実技指導をしてくれた検査室の技師の方々に心から感謝しております。

(東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座 松浦 知和)

臨床検査専門医認定試験受験体験記

このたび第27回臨床検査専門医認定試験を受験いたしました。本試験は実技試験が含まれ大変ユニークな試験です。マークシート形式でなく筆記試験というところも珍しいと思います。真夏日の中、二日間という過酷な日程であり大変苦労いたしました。真夏に試験というところも大変ユニークです。申し遅れましたが、現在私は昭和大学医学部臨床病理学教室に所属しております。一般業務の傍ら遺伝子解析を行っており感染症のみならず近年では癌における遺伝子解析を積極的に行っております。具体的に申しますと自ら気管支鏡検査を施行し、得られた細胞成分を用いて肺癌の遺伝子解析に勤んでおります。私はもともと内科医(呼吸器内科)をしており、臨床検査に関してはほぼ素人同然といったところでした(と言っても呼吸器内科の知識も危ういですが)。このためまず標準臨床検査医学を一通り眺めました。内科学に通ずる箇所もあり、医師国家試験の際の知識を思い起こし、なんとか勉強いたしました。また日本臨床検査専門医会による教育セミナーを受講いたしました。このセミナーは諸先生方から大変貴重なご指導を仰ぐことができ、よい経験となりました。臨床検査専門医認定試験に際しては必須のセミナーであると思います。実技に関しても受講することで内容が整理され、所属機関での復習に役立てることができました。試験直前には再度グラム染色及び血液型判定、クロスマッチ試験等を行うことをお勧めします。試験となりますと慌てることがあるかと思いますが、直前に手を実際に動かすことで自信がつくと思います。細菌検査部、輸血部の技師の方々にはこの場をお借りして改めて感謝を申し上げます。さて実際の試験に関してですが、出題範囲はやはり広く自分の知識不足を痛感しました。筆記試験では空欄を作らないよう多少強引に言

葉で埋め尽くしました。実技試験もなんとか対応できましたが、面接試験で言葉に詰まる箇所があり悔れませんでした。検査管理に関しては当然ですが一定の知識が問われます。ともかく二日目の午後ともなると体力がかなり消耗されます。寝不足には注意して下さい。以上、簡単ですが私の受験体験記とさせていただきます。

(昭和大学医学部臨床病理学 山口 史博)

【編集後記】

2011年もあけてから、あっという間に既に1ヶ月が過ぎてしまいました。また、このJACLaPの編集の時期が来てしまった、時間が経つのはとても早いものだと感じながら、必死にこの編集後記を書いております。4ヶ月ごとにまとめるので、次回のためにネタをためておこうと考えてはいるものの、いつも直前になってなんの話題も蓄えてなかったと後悔し、毎回苦しんでおります。知識が豊富で、医学的な話題や世間一般の何かおもしろい出来事をあっさり書ければよいのですが、なにぶん文才がありませんので情報集めにネットサーフィンなどに頼りがちです。ただし、逆に仕事が滞ってしまい無駄な時間を過ごしてしまうので悩みどころです。

今回のJACLaP NEWSは、春季大会のプログラムや、先日行われました「臨床検査の日」制定フォーラムや第27回臨床検査振興セミナーのご報告が主な内容です。春季大会に関しては、盛りだくさんのプログラムが詳細に載っておりますので、より多くの先生方にご興味を持っていただくことができ、また参加される先生方が多くなるのではないかと期待しております。今話題の東北新幹線E5系「はやぶさ」の「グランクラス」に乗ることができるかわかりませんが、大変楽しみです。「臨床検査の日」に関しては、国民の皆様方に臨床検査の重要性をご理解いただき、親しみやすく接することができるようになった良い機会だったと思います。

会員の声ですが、今回は3人の先生方にお書きいただいたものをお載せいたしました。スペースの関係上、今回お載せすることのできなかつた先生方にはこの場を借りてお詫び申し上げます。このところ、新専門医の先生方をお願いすることが多かったのですが、先輩会員の先生方にもお願いしたところ、ご執筆に関してご快諾をいただきました。次号、次々号などに掲載することができればと思います。ご期待下さい！

最後になりましたが(いつものお願いですが)、会員の声をたくさん先生方をお願いするつもりでおりますので、その折にはご支援をよろしくお願い致します。

(編集主幹 東京大学医学部附属病院検査部 金子 誠)

日本臨床検査専門医会

会 長：渡辺清明、副会長：佐守友博、渡邊 卓

常任幹事：

庶務・会計 東條尚子、情報・出版委員長 矢富 裕、教育研修委員長 山田俊幸、資格審査・会則改定委員長 土屋達行、渉外委員長 佐守友博、保険点数委員長 渡辺清明、専門医広告・啓発促進ワーキンググループ委員長 村田 満

全国幹事：安東由喜雄、尾崎由基男、小田桐恵美、康 東天、北島 勲、木村 聡、熊坂一成、幸村 近、小柴賢洋、三家登喜夫、諏訪部章、田窪孝行、日野田裕治、舩渡忠男、前川真人、松尾収二、三井田孝、満田年宏、宮澤幸久、盛田俊介

監 事：高木 康、水口國雄

情報・出版委員会 会誌編集主幹：池田 均、要覧編集主幹：木村 聡、会報編集主幹：金子 誠、情報部門主幹：大西宏明

日本臨床検査専門医会事務局

〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地 第3東ビル908号

TEL・FAX：03-3864-0804 E-mail：senmon-i@jacp.org